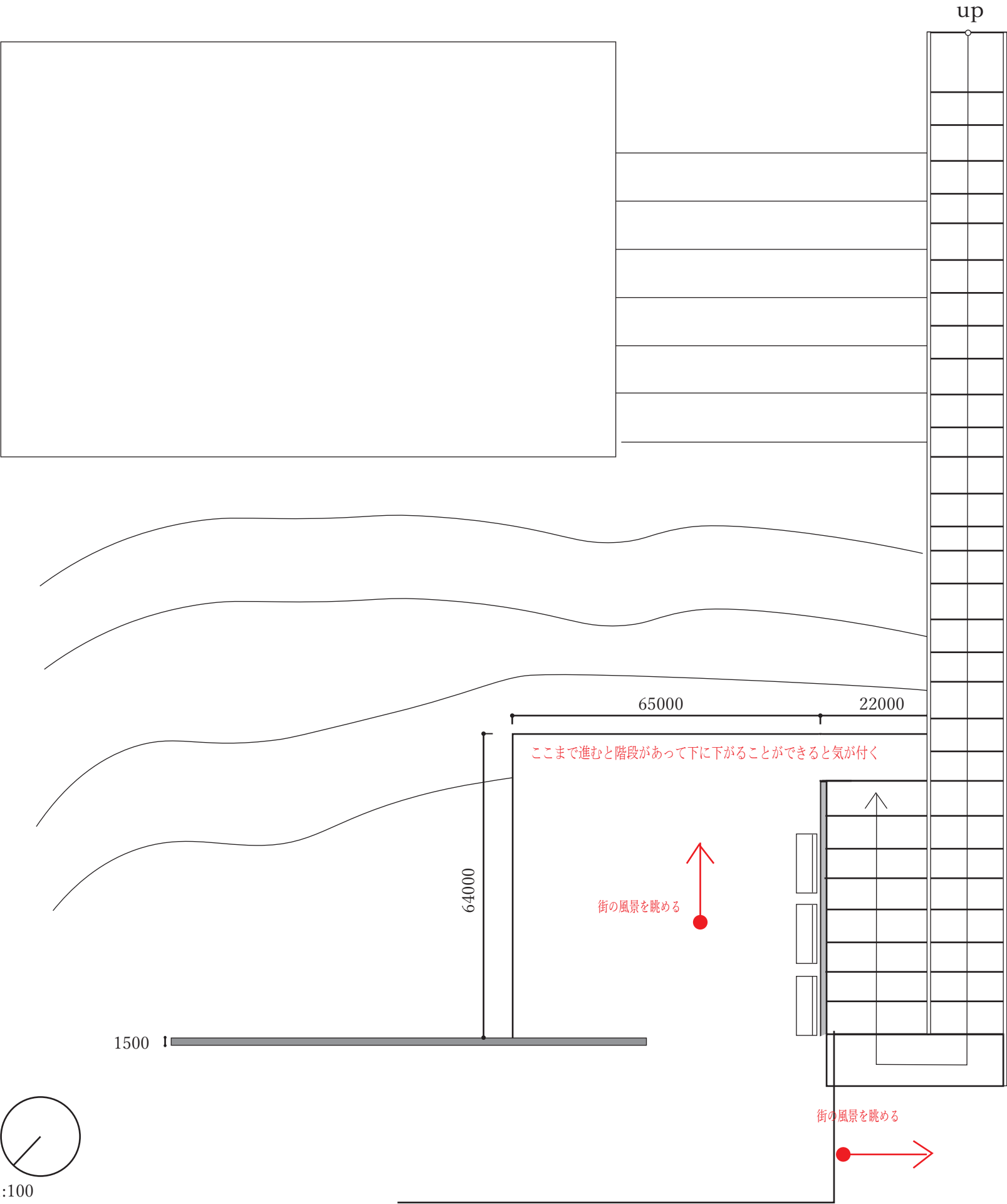


移ろう風景



私が考える「和」の要素とは、「身体の移動による空間の変容」です。日本の回遊式庭園では、視点や光の変化を歩みと共に感じられます。また、飛び石の配置によって、今までいた場所を客観視する新たな視点も得られます。さらに、茶室のにじり口では、身をかがめて入ることで空間認識や意識の変容が生まれます。この変容の在り方を「和」と捉え、私は日本の風景の中で、身体の移動によって風景の見え方が変わる触媒のような建築（ランドスケープ）を想定します。具体的には、狩尾神社を敷地とし、丘の上から景色を一端見せた後、歩を進めると階段が現れ、街の中へと誘う空間構成を提案しています。



庭園の中の飛び石



躍り口



狩尾神社の上から見た街の景色



パース